(夜間)対歩行者被害軽減プレーキの試験法・評価法に関する検討

①評価シナリオの整理 :試験条件の確認

②導入スケジュール:照度条件と導入時期の確認

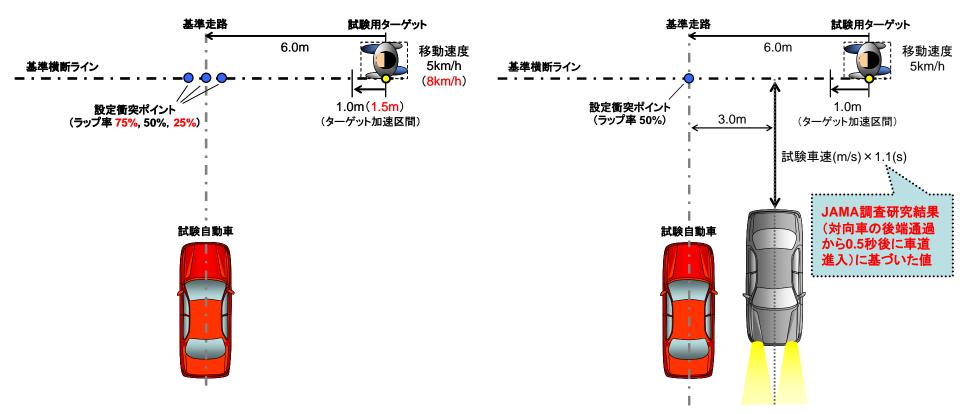
③開始までの課題整理:方針検討、調査研究実施

〇夜間AEBS試験時の前照灯条件

- 〇夜間AEBSとADB/AHBの評価点の重複対応
- ○試験環境としてのターゲット背景の影響対応
- ○街灯あり条件における照度設定値と衝突ポイント
- ○街灯なし条件における部分評価の妥当性検証

1夜間評価シナリオの整理

遮蔽車両なし (CPFシナリオ) 遮蔽車両あり (CPFOシナリオ)



【照度環境条件】

①街灯あり条件(明るい環境):15lx程度

②街灯なし条件(暗い環境) : 1lx未満

2評価導入スケジュール

第1段階:2018年4月~

- ・夜間歩行者AEBSについては、対象事故全体の70% 以上を占める"街灯が設置されている場所"を想定し た環境(街灯あり条件)において、評価試験を開始。
- ・加えて、高機能前照灯(ADB/AHB)については、認証の有無による装備加点の付与を開始。
- ・"街灯が設置されていない場所"を想定した環境については、部分評価の適用可否など試験効率化の検討を進める。



第2段階:2019年4月~

- ・上記の効率化が図れた場合、"街灯が設置されていない場所"を想定した環境(街灯なし条件)における対歩行者AEBS試験を追加導入。
- ・高機能前照灯(ADB/AHB)については装備加点を 継続。ただし、夜間歩行者AEBSの効果と重複する点 数分については補正処理を行う。



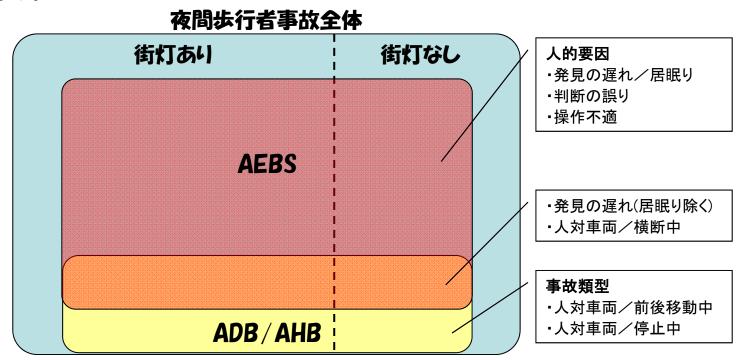
3評価開始までの課題整理

<u>○夜間AEBS試験時の前照灯条件</u>

- ADB/AHB非装着車の場合はロービーム固定とする。
- ・ADB/AHB装着車の場合は、ライトの装備得点に加え、AEBS試験時もオート設定とし、装置の普及促進を図るのが有用。ただし、テストコース環境の特殊性を考慮すると、 街灯あり条件ではロービーム固定とするのが妥当とも考えられる。

○夜間AEBSとADB/AHBの評価点の重複対応

・照度条件も考慮しつつ、事故データの重複を防ぐための評価手法について検討する必要がある。



3評価開始までの課題整理

【夜間AEBSとADB/AHB評価の棲み分け案】

第1段階: 2018年 4月~

第2段階:2019年4月~

街灯あり(72%) なし(28%)
AEBSのみ
O
ADB/AHB
(5点/2点程度?)

0	0
0	0

街灯あい(72%) なし(28%)

ADBOH - 6

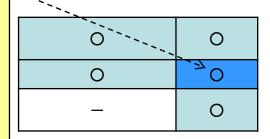
街灯あり環境下でのライト 照射効果は高くないため、 効果対象から除外。

AEBS O O O O

予防安全性能の合計点を求める際の重複については、本来ならADBの装備得点を与え、その分をAEBSの満点から差し引くべきだが、煩雑化を防ぐため、満点の比率を試験結果に乗じて対応するのが妥当。

例: 重複部分のADB得点が2点なら、街灯なしAEBS(15点満点)の評価結果に対して13/15を乗じ、街灯ありAEBS(40点)の結果と合計する。

	0
1	0



3評価開始までの課題整理

○試験環境としてのターゲット背景の影響対応

- ・昨年度の調査研究において、コース奥に設置された金属塀による反射(照明灯や自車前照灯) や正面土手との色調差が、試験の結果に影響を及ぼすことが懸念された。
- ⇒反射や色調差の影響を抑える対策(<mark>濃緑色の艶消し塗装</mark>など)を検討し、本年度の調査研究により、影響の有無や対策の効果を検証しておく必要がある。

○街灯あり条件における照度設定値と衝突ポイント

- ・照度設定値に関し、照明設置基準の観点からは「水平面照度」で規定するのが基本。
- ・一方、照度の設定値を規定する理由は、"ターゲットの見え方を統一する"ことにあり、その意味では「鉛直面照度」の方が重要と考えられる。
- ・また、現在の衝突ポイントでは、ターゲット半身(進行側)が強く照らされており、実路の照明環境と異なることで、検出性能に影響を及ぼすことが懸念される。
- ⇒照明灯との位置関係も含めて、試験時の照度設定について引き続き検討が必要。

○試験効率化の検討

- ・第2段階において、「街灯なし」を「街灯あり」と同様の試験条件でフルに実施することは極めて 困難。(工数と費用がほぼ倍増)
- ⇒ラップ率や歩行速度条件で採用した"<mark>部分評価的な考え方</mark>"を検討し、その妥当性(補正精度など)について実車検証することが必要。

(参考) 事故実態に応じた試験車速別の配点案(第1段階)

〇「街灯あり条件」を対象としたときの得点計算

明るい環境条件に割り当てられる得点

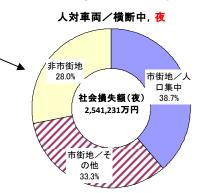
=80点(対象事故全体)×0.245(薄暮時間帯の割合)

+80点×0.437(薄暮を除く夜間事故の割合)×0.720(市街地割合)×0.814(1Lux以上の事故地点割合)

=80点×0.501

=40点 (「暗い環境条件」は15点)

遮蔽シナリオ別に分けると、CPF:32点、CPFO:8点(CPF:CPFO=4:1)となり、 車速条件別に重み付けした配点案は以下の通り。

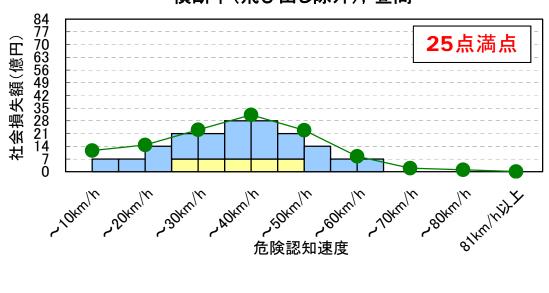


横断中(飛び出し除外), 夜間(街灯あり条件)

車速条件	遮蔽なし	遮蔽あり
10km/h	ı	•
15km/h	•	•
20km/h	•	•
25km/h	•	•
30km/h	2	1
35km/h	4	1
40km/h	6	1
45km/h	6	2
50km/h	6	1
55km/h	5	1
60km/h	3	1
合計	32	8

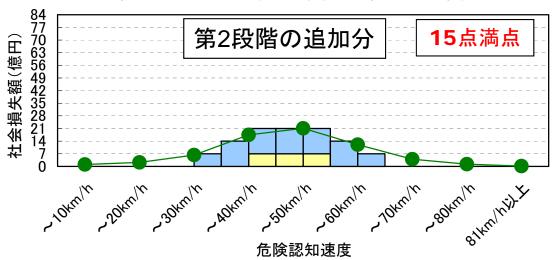
(参考) 事故実態に応じた試験車速別の配点案





車速条件	遮蔽なし	遮蔽あり
10km/h	1	-
15km/h	1	-
20km/h	2	-
25km/h	2	1
30km/h	2	1
35km/h	3	1
40km/h	3	1
45km/h	2	1
50km/h	2	-
55km/h	1	-
60km/h	1	-
合計	20	5

横断中(飛び出し除外), 夜間(街灯なし条件)



車速条件	遮蔽なし	遮蔽あり
10km/h	•	•
15km/h	•	•
20km/h	•	•
25km/h	-	-
30km/h	1	0
35km/h	2	0
40km/h	2	1
45km/h	2	1
50km/h	2	1
55km/h	2	0
60km/h	1	0
合計	12	3

(参考) 夜間AEBS評価の試験日数試算

街灯なし(暗い)条件もフルに実施した場合

i de la companya de										5走行/hr		
車速		CPF (3	82 点)	CPFO(8 点)								
^{半述} km/h	基準評価 部分評価			基準評価 部分評価				条件	時間	日数		
1311,111	50% &5kph	25%	75%	8kph	50% &5kph	25%	75%	8kph				
30	•	\downarrow	\downarrow	\downarrow	•	←	←	←	17	10.2	2.6	
35	•	↓	\downarrow	1	•	←	←	←				
40	•	\downarrow	\downarrow	\downarrow	•	←	←	←				
45	•	\downarrow	ļ	ļ	•	—	←	←	1			
50	•	•	•	•	•	←	←	←	1			
55	•	1	1	1	•	←	←	←				
60	•	1	1	1	•		←	←				

【徒忙な」条件】(15占)

車速	CPF(12 点)				CPFO(3 点)						
平压 km/h	基準評価	基準評価部分評価			基準評価	部分評価				時間	日数
	50% &5kph	25%	75%	8kph	50% &5kph	25%	75%	8kph			
30	•	\downarrow	\downarrow	\downarrow	•	Ţ	1	←	17	10.2	2.6
35	•	\downarrow	\downarrow	ļ	•		\	←			
40	•	\downarrow	↓	\downarrow	•			←			
45	•	\downarrow	↓	ļ	•	—		←			
50	•	•	•	•	•	←	←	←			
55	•	1	1	1	•			←			
60	•	1	1	1	•		—	←			

合計 20.4 5.1